

外務大臣賞・大阪府知事賞

「関西弁は第二日本語」

キム ヨハン

Mr. KIM Yohan

(韓国・日本語学校生)

2006年に来日。日本の大学編入を目指して大阪で勉強中。大学では、経営・経済を学びたい。卒業後は、日・韓両国でのビジネスの夢を持っている。



日本語を勉強したい、日本へ留学したいと夢見る学生の間では、関西は人気がありません。学生のほとんどはできることなら関西に留学したくないと思っています。どうしてだか皆さん分かりますか。それは特に関西人が何気なくつかっている関西弁が悪いのです。外国人の留学生にとっては関西弁は日本語が勉強しにくくなる原因のひとつと言われているからです。

私が大阪へ来る前、韓国の先生や友達から「キムさん、大阪で留学することになったね。関西弁は絶対に習っちゃだめだよ。」とよく言われました。最初のうちは「私は方言に強いですから」と笑って答えていましたが、あまりにも皆が心配してくれるのでだんだん標準の日本語が勉強できるのだろうかと不安になってきました。けれど一方で、大丈夫だという気持ちも確かにあったのです。それは韓国にも方言があるからです。二年間、軍隊に入っていた時、そこには韓国の色々な地域から来た人がいました。そして皆が使う色々な方言の中で生活していた経験があるので、関西弁くらいは簡単に習うことができると思っていました。

しかし、私の考えは甘すぎたのです。大阪に来たばかりのころ、大阪名物のお好み焼きを食べようと思って店に入ったことがありました。「毎度」、「おおきに」エ！何！どういう意味だろう。皆さん、店で敢えて方言を使う必要があるのでしょうか。私はこの言葉を初めて聞いた時、日本に来る前日本語を勉強していた私が何で分からないのか、韓国の先生が心配してくれたことを思い浮かべました。そして、少し後悔しました。日本のテレビ番組でもそうです。日本でテレビを見てびっくりしたことがあります。テレビ番組で出演者の全員が堂々と関西弁で話していたのです。韓国ではたとえ地方のテレビ番組でも出演者は共通語で話すのが当然だとされてえています。韓国で方言というものは正しくない言い方であり、野暮ったいイメージもあって、地方に住んでいる人でも共通語を使います。方言を使うことは就職活動にも少しマイナスの影響を与えてしまいます。ですから、特に学生たちは共通語で話そうとしています。

なのに、日本では若者たちはもちろん、テレビ番組でも関西弁を使っていたのです。何でテレビ番組まで関西弁を使っているんだらう。せっかく私は日本で勉強しているんだからちゃんと共通語で話してほしいなど強く思いました。

しかし、日本で生活していくうちに私の考え方も少しずつ変わっていきました。私は在日韓国人の伯母と一緒に住んでいます。住み始めてすぐのころ、スーパーで牛乳一本を買って来ましたが、伯母か

ら「これ、なんぼ」と言われて「一本だけど…」と答えたことを思い出します。今、考えれば共通語で言えば「これはいくらですか。」と聞いていたのです。このように伯母が話している日本語が全然分かりませんでした。方言に自信があった私になんで日本人の話す日本語が分からないのかとちょっと悔しかったです。その都度「エ、何！」と言いながら共通語で言い直してもらっていました。学校で先生が話している日本語は分かるけれども、生活している関西の日本語が分かっていなかったのです。

結局、教科書的な日本語しか理解していなかったのだと思い始めると同時に私は韓国の方言と日本の方言は違う。特に関西弁は方言というより第二日本語なのだと気がつきました。ですから、今まで勉強してきた日本語と同様に関西弁も身につけるべきだと思うようになりました。それから、関西弁を少しずつ勉強し始め、伯母との会話もスムーズになりました。もう共通語に直してもらわなくても、意味が分かるようになり、いつの間にか自分も無意識で関西弁を使うようになりました。

最初、習う必要がないと思った関西弁が、今は方言というだけではなく日本語を面白く習えるきっかけになったと思います。関西では関西弁が共通語のように一般的に使われているのです。言わば、これこそが生きた日本語で私にとって関西弁は第二日本語なのです。

もし、これから関西で生活を始める後輩に「アカンってなんですか」と聞かれても「アカン」というのは「だめ」、「いけない」の意味ですよと堂々と答えられます。

第二日本語として関西弁の表現とともにイントネーションも関西人らしく自然に言えるようになりたいし、関西弁のみならず関西人の心にももっと触れたいです。生きた第二日本語をこれからもたくさん覚えていきたいと思っています。

おおきに！